

# 飼 養 管 理

## 養 鶏 × モ

卵価はその年により若干の違いはあるが、8月頃から翌年1月頃までが比較的高いので、この間に産卵率を向上させることは、経営上からみて大変有意義なことと思われる。

今年、3月中旬以降にふ化した鶏は、来年秋頃までまず換羽することはないが、3月上旬以前にふ化した鶏は、早晚の差はあるが自然のままでは換羽を始め休産する。この換羽を抑制して産卵を持続させ、産卵の季節的分布を変化させる唯一の方法が点灯飼育である。

### 点灯時間

点灯は、初秋から冬にかけて、日照時間の短くなったとき、それを点灯によって補足するわけであるが、大体一日の明るい時間、つまり日照時間プラス点灯時間が、13～14時間程度になるのがよい。

また、日の出前と夕方日没後点灯する二つの方法があるが、平飼い飼育等では日の出前のいわゆる早朝点灯の方がよく、ケージ、バタリーの立体式の飼育ではどちらでも構わないが、できるだけ早朝点灯の方がよい。

### 鶏の年令との関係

鶏の年令による点灯開始の時期、点灯時間は表のとおりであるが、若雌の場合はあまり点灯時間を延長することは、鶏の疲労を多くして長期の産卵がむづかしいから、産卵率を考慮してなるべく短時間の方がよい。

バタリーやケージ飼育で、同一鶏舎内に成鶏、若雌を一緒に管理している場合は、一応若雌を基準にして、これもあまり長時間の点灯はできない。

### 光 源

光源の種類には普通電球、赤色電球、蛍光灯等いろいろあるが、普通電球でよい。

平飼い飼育の場合は、床上1.8m位の位置に、床面積18㎡当り40w一灯位の割合で設ける。床上2m以上では60w位の方がよい。いずれも鶏舎内の隅々まで光線が当るよう、電灯を吊るす位置を工夫すること。

ケージやバタリー飼育では、通路に4mおき位に一灯位吊るす。電灯の反射光線でも、ある程度効果はあるが、なるべく直射光線の方がよい。ひな段式ケージでは都合がよいが、直立式ケージでは、下段のケージに光線が入りにくいから工夫すること。また電灯には必ず傘をつけること。

### 注意事項

点灯時間は規則正しくおこなうこと。また点灯は、絶対的に産卵率の向上を保証するものではなく、病鶏、駄鶏の適切な処置をおこなうこと。産卵率の向上に伴い、鶏の要求する栄養の補給につとめること。

(養試 岩本技師)

鶏の年令と点灯との関係

鶏の年令	目 的	点灯期間	点灯方法	1日の明るい時間
成 鶏	年末までに処分するもの	8月中旬～ 12月中旬	終 夜	24時間
	翌年まで産卵させるもの	9月中旬～ 3月中旬	早朝又 は夕方	13～14時間
若 雌	早春ふ化のものの休産防止	10月中旬～ 3月中旬	〃	〃
	晩春ふ化のものの産卵促進	11月上旬～ 3月中旬	〃	〃